

学校運営協議会 議事録

学校名	大阪府立大阪南視覚支援学校
校長名	松村 高志

開催日時	平成 31 年 2 月 28 日 (木) 10 : 00 ~ 11 : 30
開催場所	府立大阪南視覚支援学校 校長室
出席者 (委員)	委員長、副委員長、委員 4 名
出席者 (学校)	校長、教頭 2 名、事務部長、課長補佐、首席 4 名、部主事 4 名、教務部長
傍聴者	なし
協議資料	資料 1 平成 30 年度 学校教育自己診断の結果について 資料 2 平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価について 資料 3 平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価について その他資料 通学路の安全と鉄道事業者との連携
備考	

議題等 (次第順)
【協議】 1. 平成 30 年度 学校教育自己診断の結果について 2. 平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価について 3. 平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価について 4. その他 【報告】 1. 防災について 2. アレルギー対応について 3. 通学路の安全について 4. 第 60 回 弱視教育研究全国大会 大阪大会について 5. 専修部の国家試験の見通しと新入学生の状況について 6. その他
協議内容・承認事項等 (意見の概要)
【学校長挨拶】 この学校運営協議会は保護者及び地域の方々等の学校運営への参画、支援や協力いただくために設置する者である。今回は、平成 30 年度の学校評価を説明し、平成 31 年度の学校経営計画の「めざす学校像」と「中期目標」について承認をいただきたい。 【協議】 1. 平成 30 年度 学校教育自己診断の結果について (総務部長) 委 員： 全体として肯定的意見が増えている。取り組みが良かったのではないかと感じる。図も見やすくなった。結果的に悪くないと感じた。

2. 平成30年度 学校経営計画及び学校評価について

委員： 就職率100%をめざしているところがあるが、実際は何%か。

事務局： 現在は専修部27名中、進路先が決まっているのが9名。昨年度は最終的に全ての学生の就職先が決まった。

事務局： 高等部は進学、就労併せて毎年全員決まっている。

委員： 27名中、9名ということで、これはのちに100%になるということか。

事務局： 就職活動は、1・2月は国家試験があるので、活動が止まる。国家試験が受からなければ実際には就職できないが、その部分は就職率には含んでいない。

委員： サマースクールは、どこの部が実施しているのか。

校長： 教育支援部で小学校を対象に実施している。

委員： 近畿圏の他の盲学校では、地域と学部と一緒にに行っている。保護者同士と一緒に交流できる機会になるので、その方が良いのでは。

校長： ありがとうございます。

委員： 在籍者数が減っていると前回聞いたので、住吉区としても学校への広報を行っている。

校長： ありがとうございます。

事務局： 今年は患者から声がかかり、ネットラジオで本校の専修部の宣伝を行った。

校長： 今年は、住吉の人権フェスタにも参加させていただく。

委員： センターの機能について。高等学校への支援についてはどのような取組を行っているのか。

事務局： 府立高校において、障がいのある生徒の受け入れについての動きが活発に成るのに合わせて、本校への支援依頼も増えてきている。私立の学校に関しても同様である。

委員： 本校の大学入試に関して、特別なサポートができるので、対象の高校生に情報提供をしてほしい。

教頭： 10年前に本校で府立高校対象に実施した調査では、60名前後の対象者がいることが分かった。視覚障がいへの理解をどう広めていくかが課題。

委員： 何らかの調査を行うことを含め、外部支援をもっと広げていただければと思う。高等部の取組みについて、(筑波のように、)より準ずる教育を外に理解してもらえるようになれば良いと思う。個人的には、もっと宣伝をしてほしい。

委員： 外部支援について。特別な予算について計上しているのか。

校長： 非常勤講師が配置されている。

委員： 眼科との連携はどうしているのか。

教頭： 「大阪あいねっと」を通して連携している。視能訓練士とも連携している。

校長： 「大阪あいねっと」をもっと活用していきたい。

委員： 国家試験が不合格となった学生には、どのようなフォローを行っているのか。

事務局： あん摩に関しては、次の年にはほぼ全員合格している。次年度の合格をめざして、フォローを行っている。

委員： 卒業生で独立開業者はいるか。

事務局： ２年前に１名いたくらいである。柔道整復師が独立するには３年間の就業と施術管理者研修を受ける必要があるので、すぐに開業できない。

委員： 就職先はどのようなところか。企業の実際の受け止めはどうなっているのか。

事務局： 大企業でのヘルスキーパーを開拓している。理学療法科は一般的に病院か老健施設になる。

委員： 教員養成について。いかに専門性をつないでいるのか。事例があればありがたい。初めての方はどのくらいいるのか。

校長： 新転任者の研修は一学期にみっちりを行っている。それからはＯＪＴでそれぞれをサポートしている。

委員： 本大学では、視覚障がい教育専攻者は少ない。採用されても盲学校へ赴任しない現状がある。永遠に盲学校に赴任しないということは避けてほしい。

校長： 視覚障がい教育講座の卒業生について、初任者での配属希望を教育委員会に出している。

３．平成３１年度 学校経営計画及び学校評価について

委員： 働き方改革について、校内だけではなく、地域の核になる教員がもっと必要であるので、インクルーシブ教育を進めるための負担が大きいのではないか。何か手立てをしているのか。

校長： 学校の地域支援での実績を示し、絶えず報告をあげている。

委員： 大阪北視覚支援学校との二校間交流についてはどの様にしているのか。

校長： 養護教諭同士の意見交流、小中学部では学部間の交流学习など行っている。

（協議会委員より、承認をいただいた。）

【報告】

１．防災について

２．アレルギー対応について

３．通学路の安全について

委員： 杉本町の音響信号機が変わり、音が鳴らなくなった。意見書を出したら、交換しか役所は行っていないとの回答だった。視覚障がい者より、高齢者が優先になっているようだ。

４．第６０回 弱視教育研究全国大会 大阪大会について

５．専修部の国家試験の見通しと新入学生の状況について

６．その他

次回の会議日程	
日時	平成 31 年 6 月 日 () : ~ : 未定
場所	府立大阪南視覚支援学校 校長室